

人工海藻シーラントによる漁場造成手法の開発

地域課題に係る産学共同研究委託事業（静岡市産学交流センター） 令和3年度採択事業

【 〰 MICCS 参画プロジェクト 】



目的・概要

人工海藻シーラントは藻場の衰退した海域や本来海藻の生育しない砂浜海岸等に、容易に人工藻場を作り出せる数少ない技術である。本事業では、静岡県・由比港から近い未利用海域において、シーラントを用いた大規模人工藻場を造成し、シーラントの持つ集魚効果を活用した漁場造成手法の開発を目指す。ポリエチレン素材製であるため、機能的に優れていても採用に踏みとどまるケースが多々ある。これに関しては、本プロジェクト海域での耐久性が証明されることによって、海洋ゴミにならないことでイメージアップを図る。

実施体制

【プロジェクトリーダー】

株式会社東海アクアノーツ 代表取締役 社家間 太郎

【参画機関】

<産業界> 由比港漁業協同組合

<学術機関> 東海大学

<行政等> 静岡市海洋産業クラスター協議会（MICCS）



研究内容

①人工藻場の造成

台座1個につき人工海藻シーラント6本取り付けけたユニット10個を1区画とし、5区画の大区画と1区画の小区画を設置し、人工藻場を造成する。

②設置後の調査

固定カメラ2台を大区画・小区画に設置し、魚種を確認する。人工藻場内および対照区の粒度組成・底生動物・水中照度を調査し、環境の変化を把握する。

③漁獲調査

調査時に釣りによる漁獲調査を実施し、漁場としての有効性を確認する。

